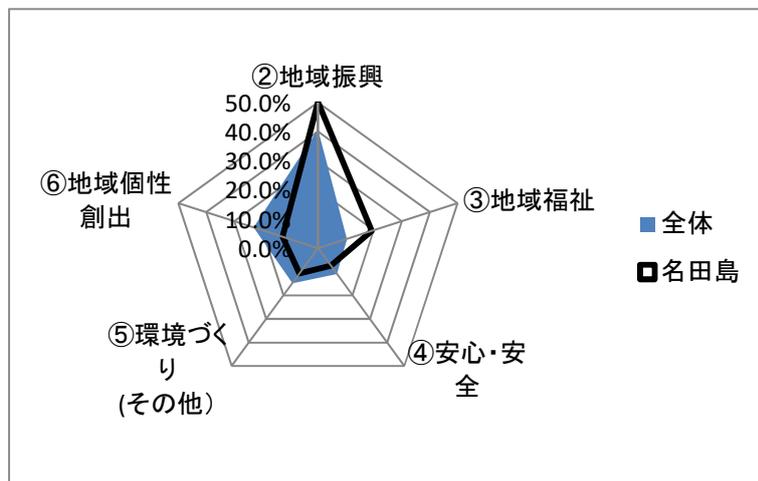


名田島自治会連合会 地域づくり交付金事業概要(令和4年度)

■地域の情報

地域人口	1,109人	自治会数	13
世帯数	465世帯	自治会加入率	91.0%

※数値は、令和5年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,992,000 円
交付金決算額	7,992,000 円
その他収入	2,474 円
交付金決算額/配分額	100.0%

各分野の決算

①協議会運営	3,616,454 円
②地域振興	952,641 円
③地域福祉	366,831 円
④安心・安全	141,647 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,472,000 円
⑤環境づくり(その他)	202,872 円
⑥地域個性創出	242,029 円
決算総額	7,994,474 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

会員や委員からの意見や提案を積極的に取り入れ、平成30年度に作成した第3次名田島地区協働のまちづくり計画づくりを推進する。

■総括

新型コロナウイルス感染症の中で、関係機関・団体と協議を重ね前年以上の取り組みを行うことが出来た。イベント関係では、春に地区民が交流する「地区民体育大会」は中止となったが夏の「ちょうちんちょこまつり」と秋の「ふるさとまつり」は規模を縮小する等の工夫をし3年ぶりに開催したところ予想を超える多くの参加者を得ることが出来た。集落において実施する市道美化事業、しばもり隊が行う小学校芝生化グラウンドの適正な維持管理、ボランティア会員がPTAと協働して行う通学路の清掃活動は例年どおり実施した。その他の事業も検討等を行い継続して実施したが中止となった事業もあった。今後、中止や規模縮小した事業全般について再検討を行い、第4次名田島地区協働まちづくり計画につなげていきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費(事務局長:1名 事務員:2名)
② 地域振興	一集落一事業、広報活動、イベント補助、第3次計画推進費
③ 地域福祉	健康増進活動事業、世代間交流事業、こども健全育成補助
④ 安心・安全	地域防災活動の促進
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物)、地域環境づくり、地域環境美化
⑥ 地域個性創出	小学校芝生化グラウンド利用促進事業、ふるさと探訪

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	第3次計画推進費	決算額	110,880円
	目的	名田島に新しい魅力を創出し、地区内外に発信(名田島地区フットパスの構築)		
	実施内容	①フットパス「向山コース」第2弾 ②フットパス「島・東開作・西開作コース」の新コース新設		
	実施時期	①11月20日 ②7月30日・3月5日試し歩き、10~2月パンフレット原案作成		
	参加人数	①31人 ②6人+17人=23人		
	成果	①前は春に実施したが、今回は晩秋の季節感を満喫した。②役員及び部会員が参加し、短期間でパンフレット原案作成に結びついた。		
	評価	①今回も地区民対象の開催となったが、老若男女が参加し交流を深めた。②7月に担当部会員が中心となって踏査し、3月はパンフレット原案を基に役員を含めて検証し身近にある地域資源を再認識した。		
今後に向けて	「向山コース」は地域内外に積極的なPRを行い、お披露目イベントを実施したい。「島・東開作・西開作コース」はパンフレットを作成して、お披露目イベントに向けて準備を加速させたい。			
②	事業名	広報活動	決算額	566,460円
	目的	名田島の情報を共有し、良さをアピール(名田島のPR事業)		
	実施内容	①総会資料 ②広報紙「田園」 ③「自治会連合会だより」による会議等開催の結果報告 ④ホームページ拡充・フェイスブックの定期的な更新 ⑤iPadを活用して名田島の姿をPR		
	実施時期	①4月 ②広報紙年3回(7・11・3月) ③毎月1回 ④随時 ⑤随時		
	参加人数	地区内外多数		
	成果	①~③全世帯配付(約500世帯) ④随時更新 ⑤随時更新		
	評価	自治会連合会の活動状況を地区民に周知し、また、地区内外に名田島の情報を発信し行事参加者の増加・郷土愛に寄与している。		
今後に向けて	更なる内容の充実に努めて行く			
③	事業名	小学校芝生化グラウンド利用促進事業	決算額	196,225円
	目的	運動の促進、地域コミュニティの醸成		
	実施内容	定期的な維持管理作業(芝刈り・施肥・散水・冬芝播種・砂入れ等)等の実施		
	実施時期	通年		
	参加人数	328人		
	成果	芝生の維持管理作業が定着している。また、5・6年生による芝刈り体験を通じて芝生の感触を楽しみ芝生化を再認識する機会となった。		
	評価	地域のボランティアで構成される名田島しばもり隊の努力により適正に管理されており、良好な芝生を提供することが出来た。		
今後に向けて	適切な管理に努め、地域住民の交流の拠点となるよう更なる利活用を図って行きたい。			